

区の手続きや施設・イベント案内は  
せたがやコール ☎5432-3333 FAX5432-3100 午前8時～午後9時  
年中無休



## 特集

# 「せたがや探究的な学び」 の推進

### 子ども主体の探究的な授業の実現に向けて

世田谷区では「探究プロセス」を確立し「共感・協働」をキーワードにした「せたがや探究的な学び」を推進し、子どもたちが学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志が一層育まれることをめざしています。

この探究的な学習を先駆的に推進している秋田県大館市に区内小・中学校教員を派遣し、研修を実施しました。本号では、その研修で派遣者が学んだことや、どう具体化していくのかを紹介します。

問 教育総務課 ☎5432-2745 FAX 5432-3028

もくじ



【特集】 「せたがや探究的な学び」の推進	1-3
ICTインフルエンサーが活躍しています！	4
SDGsと食品ロス削減のための 取組み／STEAMの先生を地域から	5
オンライン海外交流	6
プラネタリウム／総合教育会議	7
教えて！せたがやの星 読売ジャイアンツ 赤星 優志 投手	8



次のページで詳しく紹介！

# 「せたがや探究的な学び」の推進

## 子どもたちが自ら学ぶスタイルへの変換

世田谷区では、子どもたちが自ら課題をもち、主体的に学び、さまざまな課題を解決しようとする力を身につけるために、授業改善に取り組んでいます。

※詳細はこちら→



### 子ども自ら学ぶスタイルへ

幼児・児童・生徒が好奇心や探究心を喚起し、自ら「探究のプロセス」を回転させられるような学習活動を目指します。

**プロセス1** 自ら問いをもち、課題を設定する  
課題を見だし、把握している

**プロセス2** 見通しをもち、既習事項や各教科の見方・考え方を働かせる  
課題解決の方法を考えている

**プロセス3** 協働して学んでいる  
多様な学びを共有し、一人ひとりが個性・能力を発揮する

**プロセス4** 学びを振り返り、次につなげている  
働かせた見方・考え方や身につけた力を振り返り、新たな問いを見いだす

### 「せたがや探究的な学び」が目指すこと

- 子どもたちに、●学んだことが社会で役に立つことを実感させたい
- 人の役に立つことの嬉しさを味わわせたい
- 将来の夢や目標に向けて、自己実現できる力を身につけさせたい

せたがや探究的な学びとは、**探究のプロセスと共感・協働**を2本柱にしています。

### 共感・協働を大切にした学び

「探究のプロセス」を発展させていくためには、幼児・児童・生徒が多様な他者を「共感」的に受け止め、尊重し合いながら「協働」して粘り強く、よりよい課題解決に向けて取り組める力の育成が欠かせません。世田谷区では、「協調性」、「自己肯定感」、「自制・自立」といった「非認知的能力」の育成を大切にしています。

幼児期と小・中学校における学びの連続性を発展的に捉え、他者や事物との関わりを広げさせて多様な体験を積み重ねる。

多様な他者や社会、自分の将来等とつながることで、自らが思い描く未来を実現できる人材を育成する「キャリア・未来デザイン教育」が展開される。

共感・協働した学びに関わるさまざまな非認知的能力を育成するためには、幼児期における頭も心も体も動かして対象と直接関わりながら総合的に学んでいく経験が重要である。また、非認知的能力は幼児期だけではなく学齢期やそれ以降大人になっても多様な経験等を積み重ねることで育まれる。

## 「教師主導型の授業から、子ども主体の探究的な授業へ」

～探究的学習の先駆け、大館市から学ぶ～

探究的学習の取組みを10年間続け、学力向上に取り組んでいる秋田県大館市へ、区内小・中学校教員を派遣し、「探究型授業」の多様な指導法や研究内容について学ぶ研修を実施しました。大館市では、「ふるさとを愛し、共感的・協働力を備え、自らの手で社会を変えていく人材育成」が実践されており、学習中、子どもの「なぜ?」「どうして?」「どうしたらいい?」から、次には「わかった」「できた」「こうしたい!」に変わる元気な声があふれていました。



### 大館市での派遣者の学び

派遣者は、大館で学んだことを報告書にまとめ、どう具体化していくのか、それぞれが実践に励んでいます。その一部を紹介します。

### おおだて型授業（響学）

#### 「学び」の姿

【返事】【反応】【学習規律】  
教師と子どもがともにつくり出す授業



コの字型→



←オーケストラ型

#### 目的に応じて変化する「学び隊形」

**オーケストラ型**  
黒板が見やすい、指示が通りやすい  
ペア学習が効果的、集中が継続しやすい

**コの字型**  
子ども同士が向き合う学び合いの隊形  
グループで話し合い、クラス全体で学び合い

令和4年度 大館市教員派遣研修報告  
世田谷区立尾山台小学校 島田紘芳

#### 「共感的協働力」を核とする学び合い活動

高い反応力を備えた児童主体の学び合い  
対話的授業の実現



## 教材研究は「軸」と「意識」

### 「軸」：学習指導要領

- ①0（ゼロ）スタートではなく、これまでの学び（小学校段階も含む）や経験を踏まえる。
- ②「付けたい力」を明確にする。各教科の「見方・考え方」を生徒と共有する。



北陽中学校教職員全員が共有している「授業づくりのイメージ」  
作：阿部先生

教科指導力向上のために、北陽中ではさまざまな取組みを行っています。「学美ツアー」では、教科の枠を超えて相互で授業参観をし、意見交換を行います。「指導案検討会」では、学習指導要領だけではなく、学校経営計画や教育目標等とも照らし合わせて、生徒の実態に合った授業となっているか議論します。

### 「意識」：一人も見捨てない

- ①生徒の実態から目標を設定する。
- ②授業後、単元後、卒業後など多様なゴールの姿を想像して授業づくりを行う。
- ③生徒の疑問から授業をスタートさせる。



「北の大地を照らす太陽のような学校」を目指している北陽中は、先生方も生徒の皆さんも温かい家族のようでした。

視察校 大館市立北陽中学校

令和4年度 大館市教員派遣研修報告  
世田谷区立上祖師谷中学校 石川 寛樹

### その他の派遣者の声

- 「探究する」とは「学び方を学ぶ」ことであり、学習課題を自力解決していくことを通して、困難な課題に挑戦する意欲や、社会で役に立つ力を培っていくことだと学んだ。
- 授業づくりだけでなく、学びの環境づくり、学びの習慣づくりも大切である。子どもが自ら主体性を育むことができるような環境をつくっていけるようにしたい。
- クラス一丸となって授業に臨む姿勢や、一緒になって学ぼうとする気持ちを育むことの重要性を実感した。協働的に学ぶよさを子どもたちに実感させたい。

# ICTインフルエンサーが活躍しています！

「ICTインフルエンサー」とは、校内のみならず、世田谷区のすべての教員のICT活用指導力を向上させることを目的として、情報発信や研修講師等の役割を担う教員です。

一人一台のタブレットが配布され、授業での活用も進んできました。これから先は、探究的な学びや協働的な学び、個別最適な学びを実現するため、さらに効果的な活用を推進していく必要があります。そんなときに活躍するのが、ICTインフルエンサーです。現在、区立小・中学校の34名の教員がICTインフルエンサーとして積極的に活動しています。

## 教員への普及啓発



## ICTの情報発信



# ICTインフルエンサー

## 新たな学びを実践



中学校2年生  
理科「電流とその利用」



小学校5年生  
図工「重なる世界」

## ICTの教員サポート



定期的に「ICTインフルエンサー連絡会」を開催し、ICTインフルエンサー同士で情報交換やICT活用の授業実践を紹介し合うとともに、日常的にTeamsで情報交換を行い、さらなる力量や専門性を磨いています。

子どもたちから「スクラッチで作ったものを友達と共有したい」という質問がありました。分かる方はいますか？



このようにして解決したことがありますよ。

こんな方法もあります！



問 教育研究・研修課 ☎6453-1503 FAX 6453-1534

# SDGsと食品ロス削減のための取組み・献立の工夫

学校では、子どもたちが給食を通して、食べ物への関心や食に関する感謝の気持ちができるようさまざまな情報発信や声かけをしています。今回は、子どもたちの食べる意欲を引き出し、一人ひとりの食行動がSDGsの達成や食品ロス削減につながることを伝える取組みをご紹介します。

## 玉川小学校 子どもたちが考えたレシピを取り入れて食べ残しを削減

子どもたちが考案した「苦手な野菜をおいしく食べられる野菜レシピ」を給食で提供しています。5・6年生の「給食委員会の児童」が考えた料理のためか、子どもたちも意欲的に野菜料理を食べてくれるので、この取組みの日は普段より残りが少ないです。



## 桜丘小学校 「おにぎりの個数」で掲示して食べ残した量を見る化

毎週の食べ残した量をおにぎりの個数に換算して校内で掲示しています。みんなが、あと一口食べると残りがどのくらい減るかを伝えることで、食品ロス削減への意識がもてるようにしています。



## 奥沢中学校

### 食品ロス問題が分かる本『捨てられる食べものたち』図書コラボ給食

「おからが食用に使われる割合はわずか1%」ということに着目し、おから入りのメンチカツを提供しました。佃煮は、みそ汁のだしをとったかつおぶしと昆布を使用しています。

2品の食べ残しは0%でした！



問 学校健康推進課 ☎5432-2701 FAX 5432-3029

# STEAMの先生を地域から～STEAM教育指導員セミナーを開催しました～

現役を退いた教員や技術者などの地域人材を発掘し、子どもたちにSTEAM（※）教育を教える指導員の育成を目的としたセミナーを教育総合センターで9月～10月に開催しました。大学講師、エンジニア、電気関係の仕事の方など、さまざまな経験をもった13名の方々が全5日のセミナーに参加しました。

講師から小学校の理科を例に「問題解決学習」の進め方、指導者に求められること、実験の準備など、子どもが対象となるSTEAM講座ならではのポイントを実演を通して学びました。

最終日は、各自で講座の「導入」「ねらい」などを企画した指導案を自作の教材などを使って発表しました。

今後は、冬休みの講座で指導補助員を務め、令和5年度の講座より指導員として活躍する予定です。



最終日にセンター長より「修了証」が交付されました。

## <参加者の声>

- 子どもたちが未来に希望をもてるような活動ができたいと思っています。
- 子どもたちがワクワクするようなプログラムを考えて私もワクワクしています。
- 科学の面白さを再発見しました。子どもたちにも面白さを伝えたい。

※STEAMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の頭文字をとった言葉。

問 乳幼児教育・保育支援課 ☎6453-1535 FAX 6453-1534



## オンライン海外交流

新型コロナウイルスの影響で海外の方々との対面による交流が途絶える中、区立小・中学生が、オーストラリアのケアンズのホストファミリーの自宅へバーチャル訪問して、自然環境や生活スタイルの違いに驚いたり、初めて会う人と緊張しながら英語で会話したりと、日本にいながらも刺激的な体験をすることができました。

### 小学生プログラム

令和4年8月18日、20日、21日の3日間  
参加人数 小学校5年生 13名、小学校6年生 13名

### 中学生プログラム

令和4年8月23日、27日、28日の3日間  
参加人数 中学校1年生 15名、中学校2年生 17名、中学校3年生 2名

### スケジュール

1日目	10:00~11:30	事前学習 ・オーストラリアについて ・簡単な英会話
2日目	9:00~12:00	英会話レッスン ホストファミリーとの交流
3日目	9:00~12:00	英会話レッスン ホストファミリーとの交流
	13:00~14:30	事後学習 ・2日間の振り返りとまとめ ・ホストファミリーへのお礼の伝え方



自分の英語のレベルに気づくことができた。もっと英語を勉強して自分の思うことを言えるようになりたい。

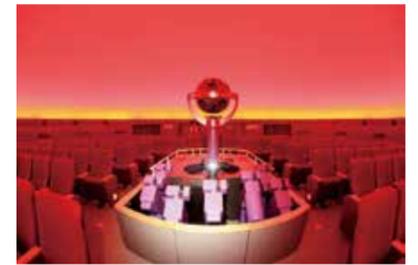
家の大きさや壮大な景色にとっても驚いた。オーストラリアの食べ物や自然、動物について興味深く学ぶことができた。

ホストファミリーの、言葉の壁を超える優しさを感じることができた。いつか会いに行きたい。

問 教育指導課 ☎5432-2703 FAX 5432-3041

## 中央図書館プラネタリウム

せたがやプラネタリウムは、世界最高クラスの1億4千万個の星で、天の川も美しく再現します。迫力のある映像も楽しめる「一般向け投影」や家族と一緒に楽しむ「ちびっこタイム」など、小さなお子さまから大人の方まで楽しむことができる、さまざまなプログラムを行っています。全てのプログラムで、専門の解説員が冬の天の三角やオリオン座など当日の星空を紹介しています。ぜひお越しください。



### プラネタリウム一般投影

- 通常期間 土・日曜（第3日曜を除く）、祝日
- 学校休業期間 年末年始（12/28~1/4）を除く 12/26(月)、12/27(火)、1/5(木)、1/6(金)
- 一般投影観覧料一覧（個人）

観覧者	観覧料金
おとな (高校生以上)	400円
こども (小学生・中学生)	100円 (土・日曜、祝日、休日は無料)
幼児 (小学生未満)	無料

#### ①11:00~11:50(ちびっこタイム)

火星を見つけよう (12/27まで)  
プレアデス姉妹のお話 (1/5から)

#### ②13:30~14:30 ③15:30~16:30(一般向け投影)

新たなる船出~未知への旅立ち~ (12/27まで)  
ひとみちゃんの恐竜物語~地球46億年の歴史を振り返る~ (1/5から(②の回))  
宇宙美術館~私たちはどこから来たのか?~ (1/5から(③の回))



問 中央図書館プラネタリウム ☎3429-0780 FAX 3429-0780

## 10月22日総合教育会議

### 第1部「不登校・ひきこもりの子どもの学び」

筑波大学教授の斎藤環氏をお招きして、子どもたちが不登校になる理由や背景、「親子の望ましい対話的關係とは」についてご講演いただきました。そのうえで、学校や家庭が子どもたちのためにどうあるべきかについて、視聴者・傍聴者から受け付けた質問にもお答えしながら、斎藤氏、区長、教育長、教育委員による意見交換を行いました。



会議の様子

### 第2部「新たな教育大綱策定に向けて」

東京大学名誉教授の汐見稔幸氏にビデオでご出演いただき、これからの教育は、本当の意味で学びを実現させるために、子どもたちの経験、体験をどれだけ豊かにしていくのかが重要であるということをご講演いただきました。その後、世田谷区の教育を取り巻く諸課題と、解決に向けた方策を示す「大綱」を策定するにあたり、今後世田谷区が考えるべき教育の方向性について区長、教育長、教育委員による意見交換を行いました。



問 教育総務課 ☎5432-2745 FAX 5432-3028

### 編集後記

読売ジャイアンツの赤星優志投手にインタビューをさせていただきました。ユニフォーム姿でご登場くださり、がっちりとした体型ではつらつとした姿をまぶしく感じました。赤星投手が幼少のころから野球に打ち込み、「継続は力」という言葉を大切にされて、現在のご活躍につながっていることを感じました。ぜひインタビュー記事をお読みください！

### 多言語対応の電子書籍（デジタルブック）で配信をしています。

電子書籍（デジタルブック）「カタログポケット」内で、日本語から9カ国語への自動翻訳・音声読み上げ機能により、「せたがやの教育」を多言語で読む・聞くことができます。二次コードよりアプリをインストールするか、ブラウザ版でご覧ください。



次号117号は令和5年3月に発行予定です。お楽しみに！

けいぞく ちから  
**継続は力。**

いっかいれんしゅう  
**一回練習しただけじゃ、なかなかうまくいきません。**

まいにちつかさ  
**毎日積み重ねていくことが大切です。**

よみうり  
**読売ジャイアンツ**

あかほし ゆうじ  
**赤星 優志 投手**

プロ野球選手で読売ジャイアンツ所属の赤星優志投手にインタビュー。世田谷区内の小・中学校を卒業されています。小学校1年生のときから始められた野球を通して培われたことや、子どもたちへのメッセージを語っていただきました。

**Profile**

1999年7月2日生まれ、23歳。東京都世田谷区出身。日大鶴ヶ丘高校時代、エースを務めた3年夏は西東京大会4回戦で敗退するなど、甲子園出場なし。日本大学では、4年春に東都2部リーグで3勝1敗と活躍し、チームを1部リーグ昇格に導いた。2021年秋のドラフトで3位指名され、読売ジャイアンツに入団。1年目の2022年は、開幕3戦目の中日戦（東京ドーム）でプロ初登板・初先発を果たすなど、31試合に登板して5勝5敗、防御率4.04。右投右打。背番号31。



しょうがっこう ねんせい ぼく やきゅう  
**小学校1年生で始めた野球。「僕には  
野球しかなかった」**

ようしゅう き  
**一幼少期はどのように過ごされていましたか。**

基本は外で遊んで過ごしていましたね。外で走り回っていた思い出が一番あります。

学校ではサッカーや鬼ごっこをしたり、一人のときは学校が終わってから公園に行き、壁に一人でボールを投げるというのをやっていた。

いけりしゅう みほくちゅう そつぎょう  
**一池尻小と三宿中を卒業されていますが、  
印象に残っている先生はいますか。**

中学校のときの野球部の顧問の先生です。野球経験のない先生だったんですけど、いろいろ僕たちのために、野球について勉強してくださって、練習も見てもらって、それはよく覚えています。

せんせい はな ことば いんしやうぶが ことば  
**一先生が話された言葉で印象深い言葉はありますか。**

野球部の最後の大会が終わった後に、先生から「優志のおかげで都大会に出ることができたよ」と言われたときは、すごくうれしかったですね。

ピッチャーを始められたきっかけはなんですか。

僕は小学校1年生でチームに入って、2年生からピッチャーをやっていたんですけど、2年生のときは僕が入っているチームに人が全然なくて、ギリギリの人数でやっていたので、ピッチャーをできるのが僕しかなかったという理由で始めました。

ピッチャーをやりたいという気持ちは野球を始められたときからありましたか。

そうですね、やっぱりピッチャーが野球の中では一番目立つポジションというか、カッコいいポジションだなと思っていたので、ピッチャーに憧れていたというか、そういう気持ちはあったと思います。

一ハードな練習や、試合で打たれてしまったりと、野球人生の中でつらいこともあるかと思いますが、それをどのように乗り越えてきましたか。

僕には野球しかなかったというか、野球するしかなかったので、野球は生活の一部で、打たれても、きつくて野球をやるっていう感じですね。

プロ野球選手として感じるプレッシャー。原監督から受けた助言。

プロ野球選手としての生活が始まってから感じられたことはありますか。

プロはプレッシャーがすごいっていうのをいろんな人から聞いていましたが、実際プロ野球選手になってみると、本当にいろんなプレッシャーを感じました。周りからもそうですし、自分でプレッシャーをかけてしまっている部分もあるので、そこがプロとアマチュアの違いかなのというのは実感しています。

一そういった大きなプレッシャーを乗り越えるために心がけていることはありますか。

やっぱり練習して、自信をつけて、試合に臨むというのが一番かなと思います。

一原監督からはどのような助言を受けられましたか。

原監督から「自分で考えて行動して、結果が出て、それが自信につながる」という言葉をいただきました。この言葉は、野球以外のことにもつながってくると思っています。今は野球に対してその言葉を受け止めていますが、引退したときかには、他のことにもすぐつながってくる言葉なのかなと思います。

一野球を通して培われたことや学ばれたことを教えてください。

一番は継続することの大切さというか、「継続は力」っていう言葉を一番感じています。自分に足りないところだったり、課題だったりっていうのは、一回練習しただけじゃ、なかなかうまくいかなくて、やっぱり毎日積み重ねていくものなので、野球を始めたときから継続することの大切さっていうのを今までずっと感じてきています。

一将来的にどのような選手になりたいかを教えてください。

今後の目標としては、先発でやりたいという気持ちがあります。来年もその先も先発として、一年間仕事ができるピッチャーになりたいと思います。

一世田谷区の子どもたちに向けてメッセージをお願いします。

僕は小・中学校のときは友達とたくさん遊んだり、野球もして、勉強も多少して、いろんなことを満遍なくやったことが思い出として残っています。小・中学生のみんなも、なにか一つのことに集中してやるのも良いと思うんですけど、勉強だけじゃなくて、自分のやりたいことや、友達と遊んだりすることも良い体験になると思うので、いろんなことを経験してほしいと思います。

